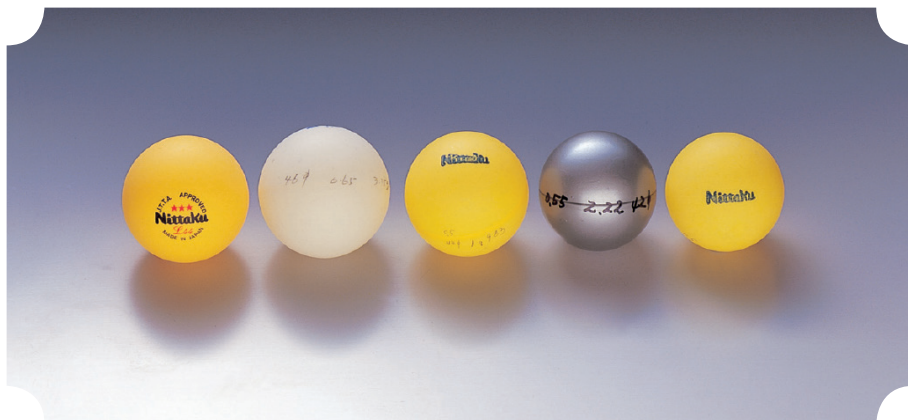


# ニッタクとラージボールの歩み

ラージボールは昔からあった「卓球の競技」ではありません。

競技として産声を上げたのは、1988年（昭和63年）。日本卓球協会の故・荻村伊智朗氏が発案。

子どもからお年寄りまで気軽にラリーを楽しめる「ラージボール」という競技がスタートしました。



様々な色・サイズ・重量の試作品から、オレンジ色・44mm・2.2gが選ばれた



1988～

初代ラージボール公認球



2013～

非セルロイド化に伴い、  
世界初のプラスチック製公認球が  
誕生



2021～

世界初の抗ウイルス・  
抗菌仕様公認球が誕生

## ▶ ニッタクの挑戦 試行錯誤の末に開発

ラージボールの発案時、ボールの研究開発に携わったのが、ニッタクです。  
誰でも簡単にラリーが続けられるよう、風船を打つ感覚を目標に開発に挑みました。  
サイズは当時の硬式卓球が38mmだったこともあり、40、42、44、46、48、50mmの  
2mm間隔で、赤、黄、青、緑、オレンジ、ゴールド、シルバー色のセルロイドを製作。  
それぞれのサイズとカラーとで重量別に2.0～5.0g位の試作ボールを作り、研究、  
試行錯誤を繰り返し、苦難の末にラージボールができました。

## ▶ 誰でも楽しめる ラージボールが誕生

硬式卓球とは違いボールのスピードを遅く、回転をかけにくくすることで、ゆっくりと  
打ち合うことができ、初めての方でもすぐにラリーを楽しむことができます。  
上級者同士ではポイントを取るための緻密な組み立てが必要で、スピード重視の  
硬式卓球とは違う奥深さもあります。

## ▶ 福澤朗もラージ沼にハマりました！

ラージボールは44mmなので「4」と「4」を合わせて、幸せな直径。この幸せな沼に一生ハマっていたいです。  
硬式卓球のようにイチカバチカの“エイヤー！”では通用しないので、慎重しいと言われる日本人には向いて  
いると思います。ラージボールの魅力はなんといってもラリーが繋がること！ラリーが繋がれば人間関係も  
繋がりますよ。また、大会に参加し始めて感じているのは、ラージボールならではの雰囲気がとても良いこ  
とですね。硬式卓球ではついつい勝敗を気にしすぎてしまうのですが、ラージボールでは和やかで友好的  
な空気が流れているのが印象的です。  
気軽にラリーを楽しめるラージボール、私と一緒に始めてみませんか？



福澤 朗